

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370389

研究課題名(和文) 高尚/通俗文学の境界を侵犯する ヴァルザーやグラウザーの戦略のアクチュアリティー

研究課題名(英文) Invading the Boundaries of Highbrow and Lowbrow Literature. The Actuality of Robert Walsers and Friedrich Glausers Writing Strategies.

研究代表者

Emde Franz (Hintereder-Emde, Franz)

山口大学・人文学部・教授

研究者番号：00209157

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトでは、スイス作家ローベルト・ヴァルザーやフリードリッヒ・グラウザーの作品を出発点に文学における評価の過程を多角的に分析し、時代、メディアや文化圏を越えた視点を持って議論や分析を行った。実施した研究会やシンポジウムの際に行われた研究発表によって文学評価の成立や展開、変容といったプロセスを洞察し社会や文壇、経済やメディアの関連性を含めて、文学創作とその評論や価値観の厳密な関連性において明瞭な洞察が得られた。

研究成果の概要(英文)：In this project, we analyzed the process of evaluation of literature starting from the work of Swiss writers Robert Walser and Friedrich Glauser in a multidimensional way and discussed the topic beyond ages, media and cultural spheres. Through the workshops and symposiums held on behalf of this project, we gained insight into processes such as the formation and development of literature evaluation, the transformation of literary genres through media, translation between cultures, and adaptations, including aspects of the relevance to society and literary circle. Clear insight was gained in literary creation and the close connections of literary criticism and evaluation.

研究分野：比較文学

キーワード：比較文学 文学評論 翻訳 翻案 異文化間 間メディア性

### 1. 研究開始当初の背景

本プロジェクトの発想は、近代文学の代表的な作家ローベルト・ヴァルザーの研究を行う際に度々直面した評価の問題に由来する。すなわち長年にわたり文学評論によってヴァルザー文学の本質は通俗文学であると見なされてきたが、同時にヴァルザーは特に作家の間では高く評価されてきたのである。本プロジェクトのメンバーはそれぞれヴァルザー研究、グラウザー研究、または翻訳比較研究に取り組み、これら研究や議論の共通点が、本プロジェクトの設計につながった。

一方研究代表者は、日本文学の独訳、特に夏目漱石の翻訳状況に関する研究成果を国際学会(比較文学大会ICLA 2010、ソウル、韓国、ドイツ語学・文学国際学会(IVG)ワルシャワ大会2010年など)の発表を通じて、翻訳の諸問題や翻訳実践に関する意識を高め、これらの研究成果をまとめた(Uebersetzungen von Natsume Sosekis „Ich der Kater“ im Vergleich: In: Transkulturalitaet. Identitaeten in neuem Licht, 2012. Translations Of Natsume Soseki's I Am A Cat. Translation As 'Family Resemblance'. Proceedings of the XIXth ICLA Congress 2010. Natsume Sosekis Uebersetzungen in das Deutsche. Eine Fallstudie zur (Nicht-)Rezeption aussereuropaeischer Literatur. 山口大学独仏文学第35号、2013)。

他方2010年から2015年スイスの文化財団Pro Helvetiaの賛助のもとで、研究連携者を中心に『ヴァルザー作品集』(鳥影社、5巻)の翻訳に取り組み、様々な形で翻訳の可能性や試みに挑戦してきた。このようにして本プロジェクトのメンバーは、翻訳や文学評価の諸問題をより広い舞台で多面的かつ網羅的に議論する必要があると考えた。そこで本プロジェクトに先立ってフランスのロレーヌ大学(ナンシー市)にて「高尚文学と通俗文学」(Hohe & niedere Literatur. Tendenzen zu Ausgrenzung, Vereinnahmung und Mischung, Nancy 2013年11月28日~30日)というシンポジウムを開催し、「高尚/通俗」における理論的な視点から、各時代に特有な取り組みに関する研究発表を行い、これらを学術論文に推敲し論文集を発行した(Hohe & niedere Literatur. Berlin: Frank & Timme, 2015年)。これにより「高尚/通俗」という正反合的な構造を、文学理論によって、または時代・メディア横断的に議論し、文学史における成果が得られた。しかしこの際すでに課題として、文化圏やメディアを越える議論の必要性を痛感した。そのため、従来しばしば議論されてきたこの問題に異文化や翻訳の側面を含めて多面的にアプローチすることを、本プロジェクトの本題として決定した。限られた文化圏を越え、翻訳や翻案、様々なメディア媒体でのアダプテーションによる物語の変化を視野に入れ、歴史を背景とした現代における文学評価のダイナミズムを考察することにした。20世紀ドイツ語圏スイス文学における異端の作家とみなされたヴァルザー(Robert Walser)とグラウザー(Friedrich Glauser)の文学を軸に、

「高尚文学/通俗文学」といった同時代における慣例的な価値評価システムと、これら二人の作品に見いだせるような新たな創作との間の相互関係を分析し、研究の射程をジャンル・メディア・時代に広げながら評論や評価のダイナミックな変容を国際的なレベルで研究してきた。

### 2. 研究の目的

特にドイツ文化圏において支配的な保守的基準である「高尚文学/通俗文学」という二分法は、新形式創出を促進するよりもむしろ抑圧する効果があると考えられる。本研究は、こうした文学的規範を背景として、具体的な作品の成立過程や作品そのものによって、その価値評価が新形式の創作に生産的に関係していることを明らかにする試みである。

具体的に注目した現象として20世紀以降、文学における再帰性や自己言及性が高まってきたことが挙げられる。伝統的な価値評価は、作品の構成要素として取りあげられ、重要な役割を演じるようになる。ヴァルザーとグラウザーがいずれも、生前は「通俗文学」作家と認識されながら、死後数十年して「再発見」され、後にさらに他言語に翻訳されたほか、様々なメディア、たとえば映画や演劇などに翻案されていることもその傾向を物語っている。本研究では、作家自身が再評価の可能性を見込んで、それを作品に書き込んだこと、つまり彼らの作品における二分法的価値評価の意識的利用方法を分析し、両作家の作品の各メディアへのアダプテーションや翻訳も含めて現代における「高尚文学/通俗文学」の諸変化を明細に考察することが目標であった。

### 3. 研究の方法

本プロジェクトに先立って具体的な個別作品の翻訳に取り組み、翻訳について厳密な分析を試みたが、本研究プロジェクトにおいては、この範囲を拡大し生産的な議論を展開することを目指した。まずは国際的なネットワークを構築するために、国際コロキウムの開催や国際学会でのワークショップ、または研究発表の出版を通じて、研究議論の輪を広げていく計画を立てた。そして、文学テキストに限らず、物語を演出する様々なメディアを介した翻案の分析にまで射程を拡げる受容分析を目指した。国際コロキウムを開催し、ここでの議論を通じて言語圏、専門領域を越えた学術交流を促進し、議論の圏域を広げることによって有意義な知見を得た。この点において、本プロジェクトのテーマである「高尚/通俗」の価値評価と創作方法革新との関係についての議論は、より高度な国際的、学際的有効性を持ったものとなった。これらの議論の研究成果は、ドイツ語、日本語、英語での口頭発表や出版によって、多方面からのフィードバックが行われた。

さらに比較文学学会ウィーン大会(2016年)の国際ワークショップを通して、「高尚/通俗」という共通テーマに「ハイブリット化」という視点を加

え、これに関わる他の作家、時代、分野について研究する専門家とのネットワークの構築を目指した。ヴァルザーやグラウザーを文学的評価の変化の前例として挙げ、各メディアへのアダプテーションや他言語への翻訳について彼らの作品分析を行うことによって、現代の文学史における様々な現象への理解が深まった。現在、新メディアや新技術によって急速に変化する文学界では、従来の価値規範も転換期を迎えており、「高尚文学/通俗文学」の相互関係の解明によって市場、娯楽、思想や文化価値の現代におけるアクチュアルな関連性や変化メカニズムに関する生産的な成果が得られた。

#### 4. 研究成果

研究代表者や研究連携者の綿密な連絡・協力体制により、期間内に概ねの目標達成がえられた。それぞれの分野での翻訳活動やヴァルザー、およびグラウザー研究を継続しながら、本プロジェクトの主題である高尚文学/通俗文学についての考察を深め、各分野やジャンル、メディアや文化圏を越える学際的な場を作ることが出来た。2014年度は、ロレーヌ大学のシンポジウム(2013年)の第2部として山口大学人文学部で国際シンポジウムの準備に入り、国際的なメーリングリストなどを利用し、ヨーロッパ、日本、アジアで参加者を募集し、シンポジウムの内容、セッションの区分け、会場の準備などを行い、2015年3月26日～28日に10セッションで28人の研究発表、そして通訳付きの公開講演2件を行った。地元の狂言団体に狂言を披露してもらい、日本文化の独特な「高尚・通俗」芸術の実践的な場面も含め、研究テーマを多面的にクローズアップ出来た。研究発表は、2015年度に学術論文「Zwischen Kanon und Unterhaltung / Between Canon and Entertainment.」(詳細:発表図書を参照)に仕上げ、2016年3月に出版された。その際全論文のピア・レビューを実施、英語の要約や日本語による講演などには独訳を加えた。当論集を五つのテーマにまとめた。第1部の「絵と文字」においては、古典における絵の機能や役割から現在のグラフィック・ノベルの文学性を論じる原稿を集め、第2部は主に「文学評論における高尚・通俗文学」の推移を議論する論文である。第3部は「翻訳や翻案」の多様な表現可能性に注目する議論である。第4部は、文学における「ジャンルの限界、限界ジャンル」の諸問題を中心に議論している研究である。第5部は「映画化された物語、活動写真の可能性」を洞察する研究が集まっている。

山口のシンポジウムの数々の議論を踏まえ、「高尚・通俗」の議論を展開させ、「ハイブリット化」というキーワードに基づいて、文学、映画、演劇などの各表象メディアの多面的な要素をより厳密に明確化するために第3回の国際的な場を企画し、2016年7月21日～27日オーストリアのウィーン大学開催の国際比較文学学会大会(ICLA Wien 2016)において研究代表者の申請によりワークショップを開くことになった。参加者は国際的に募集され、12名による研究発表が行

われた。現在は、これらの研究発表を論文に仕上げ、当学会のプロシーディングで出版することになっている。

シンポジウムやワークショップでは、研究対象を文学と視覚芸術のメディア間翻訳に關しての研究発表を行い、中世文学から現代グラフィックノベル、映画作品に至るまで文書と図像の相互作用が、高尚・通俗文学の規範を越えるための重要な契機であり続けてきたことを明らかにした。

本研究計画の重要な目的の一つは、高尚文学・通俗文学に關して学際的・国際的なネットワーク作りをスタートさせることであつた。それゆえ、シンポジウムやワークショップには言語圏を問わず、若手研究者の参加を呼びかけた。その結果、限られた期間や予算の範囲ではあつたが、欧文言語による複数の論文集の出版(ドイツ語・英語)により研究成果を国際的に還元するとともに、公開講演や研究発表を通じて広く社会的に研究内容を周知することができた。本プロジェクトの研究メンバーは国内外における国際規模の研究会や発表会に積極的に参加することによって、今後のさらなる研究の展開に向けて、経験を蓄積するとともに国外の連携研究者との交流も深めることができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

1) Vorwort. Franz Hintereder-Emde. In: Zwischen Kanon und Unterhaltung/ Between Canon and Entertainment: Interkulturelle und intermediale Aspekte von hoher und niederer Literatur/ Intercultural and Intermedial Aspects of Highbrow and Lowbrow Literature. A. Bourguignon, K. Harrer, F. HINTEREDER-EMDE, (eds./共編集), 査読有、9-22, Berlin 2016.

2) Deutsche Schulromane und ihr Echo in japanischen Maedchen-Comics: Hermann Hesse und Moto Hagios *Das Herzklopfen des jungen Thomas*. M. Wakabayashi. In: Zwischen Kanon und Unterhaltung. Bourguignon/ Harrer/ Hintereder-Emde (eds./共編集), 査読有、89-100, Berlin 2016.

3) „Worte sind es nur, Worte, in die Nacht gesprochen...“ Polyphone koerperliche Wahrheiten in F. Glausers Legionsroman *Gourrama*. Fuminari Niimoto. In: Zwischen Kanon und Unterhaltung, Bourguignon/ Harrer/ Hintereder-Emde (eds./共編集), 査読有、311-324, Berlin 2016.

4) Literary Dreams in the Works of Natsume Soseki at the Threshold of Japanese Modernity. Franz Hintereder-Emde. In: Dieterle, Bernhard / Engel, Manfred (Eds.), Writing the Dream. Cultural Dream Studies 1

- 2017、査読有、239-258, Wuerzburg 2016.
- 5) 「言葉は埃よりも、熱い空気よりも軽い」あるいは、道徳外の意味における真実と嘘について - F・グラウザーの外人部隊小説『グーラマ』論序論一、新本史叢、津田塾大学紀要 48 号、査読無、1-18、2016.
- 6) Snow White Reloaded - Grimms Maerchen im digitalen Zeitalter. Franz Hintereder-Emde. In: Hohe und niedere Literatur. Bourguignon/Harrer/ Franz Hintereder-Emde (eds./共編集)、査読有、415-428、Berlin 2015.
- 7) Eine grosse grosse Glosse: R. Walsers ironisches Spiel mit der Gattung Roman im *Rauber*. M. Wakabayashi. In: Hohe und niedere Literatur: Bourguignon/ Harrer/ Hintereder-Emde (eds./共編集)、査読有、251-259、Berlin 2015.
- 8) 「ゼロ」になるための学校 - ローベルト・ヴァルザーの小説『ヤーコプ・フォン・グンテン』について - 若林恵、『世界文学』、第122号、査読有、117-126、2015.
- 9) Internationale Rezeption. Japan. Fuminari Niimoto. In: Robert Walser Handbuch. Leben-Werk - Wirkung. Marco Gisi (ed.)、査読有、410-412, Stuttgart 2015.
- 10) Kriminalroman als Alibi oder Friedrich Glasers parodierendes Romanprojekt der Moderne. Fuminari Niimoto. In: Hohe und niedere Literatur: Bourguignon/ Harrer/ Hintereder-Emde, (eds./共編集)、査読有、237-250、Berlin 2015.
- 11) *Der Bergmann*, Natsume Soseki, Übersetzung aus dem Japanischen. Kap. 11-20. Franz Hintereder-Emde. In: Yamaguchi Daigaku Dokufutsu Bungaku 36、査読無、33-49、2014.
- 12) アリバイとしての探偵小説、あるいは、精神医学に抗して書くこと —— F・グラウザーの長編小説『狂人(マツ)が支配する』試論——、新本史叢、津田塾大学紀要 46 号、査読無、97-130、2014.

[学会発表] (計8件)

- 1) Hybridisierung literarischer Sprachen und Ausdrucksformen als Innovationsmodus. Robert Walsers Spiel mit Gattungen. Franz Hintereder-Emde, 21st World Congress of the Int. Comparative Literature Association (ICLA), ウィーン(オーストリア)、2016年7月25日。
- 2) *Schulromane von Robert Walser und Soseki Natsume: hybride Darstellungsformen zwischen „hoch und niedrig“*. Megumi Wakabayashi, 21st World Congress of the Int. Comparative Literature Association (ICLA)、ウィーン(オーストリア)、2016年7月25日。
- 3) <das junge jakobli laesst den alten gruessen> - Verdoppelung, Verstellung und Grenzüberschreitung in Friedrich Glasers Kriminalroman *Die Fieberkurve*. Fuminari Niimoto, 21st World Congress of the Int.

- Comparative Literature Association (ICLA)、ウィーン(オーストリア)、2016年7月25日。
- 4) *He and I were the same person - Struggle for Identity in Natsume Soseki's The Miner Franz Hintereder-Emde*, “Know thine enemy: Cultural perspectives on antagonistic dynamics”, 神奈川大学(神奈川県、横浜市、神奈川区)、2015年6月13日。
- 5) 夏目漱石文学における眠り～夢・感覚・無意識、ヒンターエーダー=エムデ・フランツ、時間学国際セミナー「眠りの時間学」、山口大学(山口県、山口市、吉田)、2015年12月18日。
- 6) Mehrsprachigkeit, Akzent und Luege - Polyphone, koerperliche Wahrheiten in F. Glasers Legionsroman *Gourrama*. Fuminari Niimoto: Hohe und Niedere Literatur Interkulturelle und intermediale Perspektiven einer problematischen Dichotomie、山口大学(山口県、山口市、吉田)、2015年3月28日。
- 7) Ein Spaziergang in Tokio - Prosastuecke in Paris: Fuminari Niimoto und Marion Graf. 招待講演、フアドウーツ市(リヒテンシュタイン公国)、2014年10月26日。
- 8) “Wie Robert Walser uebersetzen?” - Annaeherung an seine Werke ueber die sprachliche Hintertreppe. Marion Graf und Fuminari Niimoto, 招待講演、ウスター市(スイス)、2014年10月24日。

[図書] (計5件)

- 1) Natsume Soseki: *Der Bergmann*. Franz Hintereder-Emde (翻訳/後書/校注)、239頁、Berlin 2016.
- 2) Zwischen Kanon und Unterhaltung/ Between Canon and Entertainment: Interkulturelle und intermediale Aspekte von hoher und niederer Literatur/ Intercultural and Intermedial Aspects of Highbrow and Lowbrow Literature. A. Bourguignon, K. Harrer, F. HINTEREDER-EMDE, (eds./共編集)、470頁、Berlin 2016.
- 3) Das 48-Stunden-Gedicht. Tanikawa Shuntaro, Jürg Halter, Marie Kakinuma und Susanne Schenzle (ed.), Fuminari Niimoto, Franz Hintereder-Emde, (共訳)、64頁、Goettingen 2016
- 4) 『ヴァルザー作品集 5 盗賊/散文小品集 II』、新本史叢、ヒンターエーダー=エムデ・フランツ、若林恵、共訳、鳥影社、380頁、2015.
- 5) Hohe und niedere Literatur. Tendenzen zur Ausgrenzung, Vereinnahmung und Mischung im deutschsprachigen Raum. Bourguignon/ Harrer/ Franz Hintereder-Emde, (eds./共編集)、470頁、Berlin 2015.

[産業財産権]

○出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

ホームページ等  
国際シンポジウムのサイト  
[http://www.yamaguchi-u.ac.jp/event-cal.html?  
blockId=361623&calendarMode=article](http://www.yamaguchi-u.ac.jp/event-cal.html?blockId=361623&calendarMode=article)  
[http://www.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/?p=9861&  
img=link](http://www.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/?p=9861&img=link)

6. 研究組織

(1)研究代表者

エムデ フランツ(Emde Franz)  
山口大学・人文学部・教授  
研究者番号:00209157

(2)研究分担者

( )

研究者番号:

(3)連携研究者

新本 史斉(Niimoto Fuminari)  
津田塾大学・学芸学部・教授  
研究者番号:80262088

若林 恵 (Wakabayashi Megumi)

東京学芸大学・教育学部・教授  
研究者番号:00293001

(4)研究協力者

ハラール・コンラート(Harrer Konrad)  
ロレーヌ大学・哲学部・准教授

ドボアシユ・ミシエル (Boissieu, de Michel)

山口大学・人文学部・准教授